

1、評価項目の達成および取組状況

幼保連携型認定こども園 金城幼稚園・保育園 H29. 3. 22
H28 年度 学校評価の取り組み報告 ~ダイジェスト版~

① 今年度の取り組み状況 (H28. 夏 1 回目実施)

☆保育者としての資質や能力・良識・適正☆
繰り返し支援が必要な人への対応

実践したこと・・・

キャリアパスの有効活用のため、鎌倉女子大学教授佐藤先生にアドバイスをいただき、新採用者にまずできるようにしてほしい項目を2つモジュールマップを作成した。職員一人ひとりの次の目標を園長、主任とともに共通にし、支援の手立てとした。

☆保育者としての資質や能力・良識・適正☆
周りへの感謝の気持ち、ねぎらいの気持ちを伝えることについて

実践したこと・・・

「ありがとうの木」を作り、職員室に掲示した。(①保護者に対して②子どもたちに対して③職員に対して) 日々の生活の中で感謝の気持ちをふせんに書きだし、木に貼っていった。特に職員間では気持ちを書きだすことにより、同僚に支えられて日々の保育が行われていることをあらためて感じる事ができた。

☆保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度☆
こどもの危機管理と園舎の構造との関係性について

実践したこと・・・

園内、園庭でどのような事故が起こりやすいかを分析したところ、「子どもたちが経験することで意識し防げる危険」と「保育者が手を加え、防がなければいけない危険」があることがわかった。また、園内や園庭をどんなふうを活用しているかを話し合った。すでに活用されている例がたくさんあった。しかし、園庭の環境が活かされていないということに気が付いた。そのため、園庭での自然をいかせるように日本自然保護協会認定自然観察指導員 青木さみ子氏を招き研修を行ったり、山砂、川砂を入れた。H29 年度は学んだことを保育にとり入れていく。

② 今年度の取り組み状況 (H29. 冬 2 回目実施)

夏の自己点検・自己評価を受け2回目は再び『保育者としての資質や能力・良識・適正』『保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度』の項目について自己点検・自己評価を行いました。
その中で、保護者に対して「伝達事項を伝えることがうまくできない」ということが課題にあがりました。
そのため、2月のグループディスカッションでは「保護者へ伝えなければいけない伝達事項」をテーマに話し合うことになりました。



③ 来年度に向けて

☆保育者としての資質や能力・良識・適正☆
保護者への伝達事項の共通理解(3歳未満児)

・保護者への伝達事項を整理し、表にした。
この表を基に、来年度の職員でも共通理解し、保護者との連携をはかっていく。

☆保育者としての資質や能力・良識・適正☆
保護者への伝達事項について (3歳以上児)

・保護者への伝達事項をしっかりと伝えるために必要なことは、子どもの良い所・成長した所を保護者に日々繰り返し伝えていくことが大切だということを共通理解した。保育にいかしていく。

④ 学校評価委員の方からのご意見



・毎回、日々の検証をしっかりとされている。常に一つひとつ気付いた時に振り返って細かく対応すること、まとめて振り返ることのどちらも大切にしている。その積み重ねが成果に繋がっている。継続して欲しい。
・今まで行事等の表面的な部分しか見えていなかったが、今回参加させて頂き、その裏側で多くの努力をして下さっていることが見えた。子どもは園でたくさん学ぶことができ成長していると感じる。



・「初雪が降った」「虹が出た」など保育者が多少止まっても見る機会を作っている」という内容が自己点検内であったが、とても大切にしていることだと思う。マニュアルにのせられない、保育者としての感性も大切なのだと感じる。
・評価の積み重ねが大切。自己点検、自己評価、課題、改善策の流れの取り組みの積み重ねが子どもの姿に表れている。
・「保護者との連携」はとても大切なキーワードである。誰がどうこうしても家庭の役割を担うことはできない。子どもの成長の中で、家庭でなければならない役割を明確にして自覚をしっかりと持って頂くことを目標として欲しい。



・職員の間接性を大切にしていることが伺える。職員が悩んだ時に一人ぼっちにさせないチームワークがとれた関係性ができている。
・指導者には『資質・能力・良識・適正』は欠かせない。その中でも特に良識が基本と思う。“やるべきことをやっているか” “やった方が良いと思う事を行っているか” “やらぬ方が良いと思う事を行っていないか” “やってはいけないことをやっていないか” “をどうやって子どもに教えていくかが大切。
・環境教育、幼保小連携、特別支援、学校評価、第三者評価養成講座など求められることを蓄積に積み重ねている。

